

藤沢海岸辻堂地区における飛砂堆積 状況調査

一般財団法人土木研究センター

なぎさ総合研究所長兼

日本大学客員教授理工学部海洋建築工学科

工博 宇多高明

Dr. Takaaki Uda

はじめに

- 神奈川県辻堂海岸では，毎年冬季にほぼ南西方向からの風が卓越し，これに伴う飛砂が著しく，海岸線と平行に走る自転車道が砂に埋まって交通の妨げとなるなどの被害が出ている。
- 対策として，自転車道に沿って堆砂垣が設置されているが，飛砂はこの堆砂垣を超えて自転車道へと侵入している。
- このため神奈川県では，堆積した飛砂を除去する工事を毎年繰り返しているが，それには多額の経費を要し，また自転車道への堆砂を除去しても，海風が吹けば再び自転車道で堆砂が起こるなど，維持管理上の課題を抱えている。

はじめに(続)

- このことから、飛砂の経済的な除去法と、自転車道の維持管理法について検討するため、2025年9月25日、引地川河口からその西2.4 km区間において飛砂の堆積状況を調べた。
- 図-1には現地調査区域の衛星画像と現地調査時の写真撮影地点（St.1～St.18）を示す。
- また、図-2には、図-1の矩形域の拡大画像を示す。以下、図-2に示すSt.1～St.18で撮影した現地状況より自転車道への飛砂の堆積状況を明らかにする。

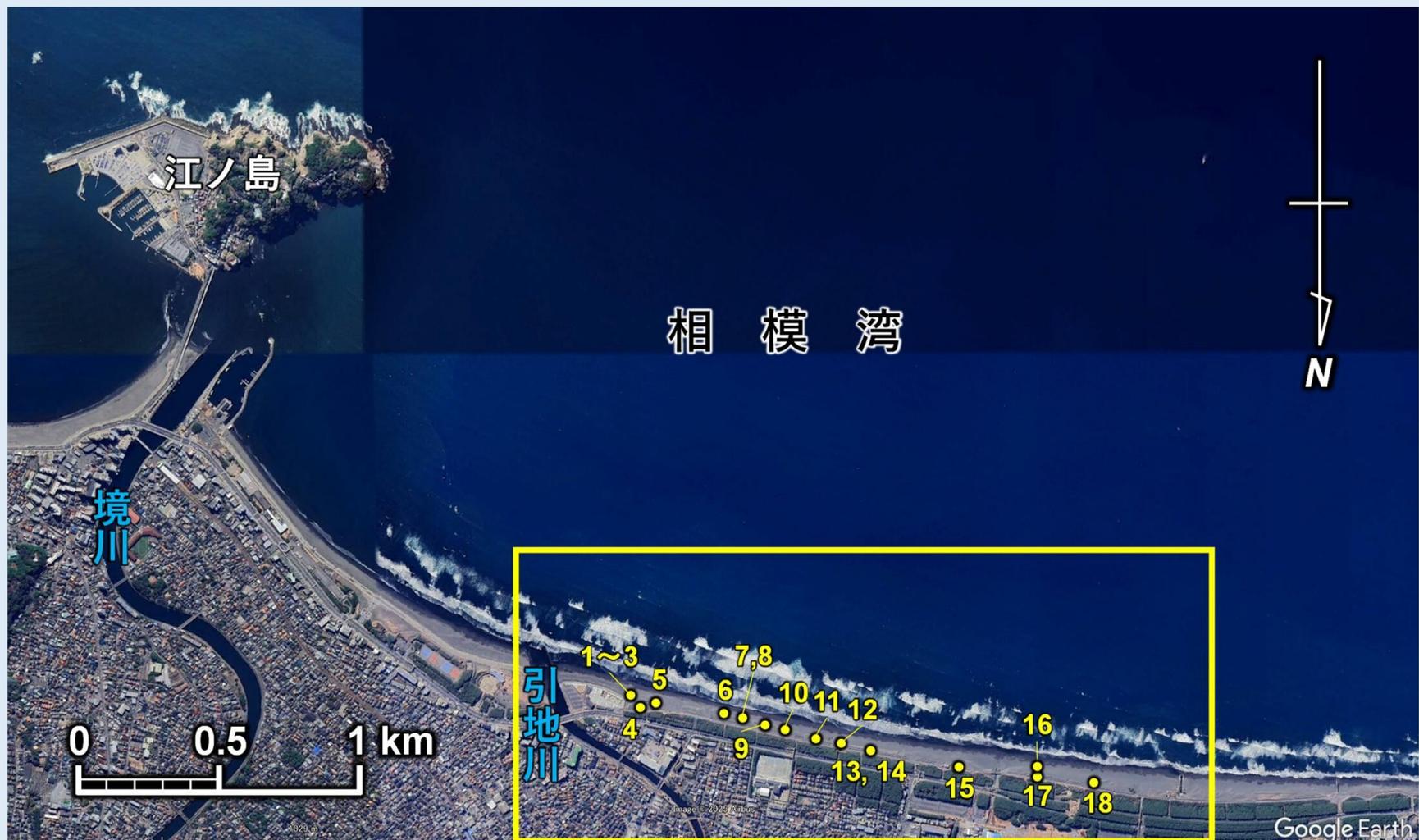


図-1 辻堂海岸の衛星画像と写真撮影地点 (St.1～St.18)

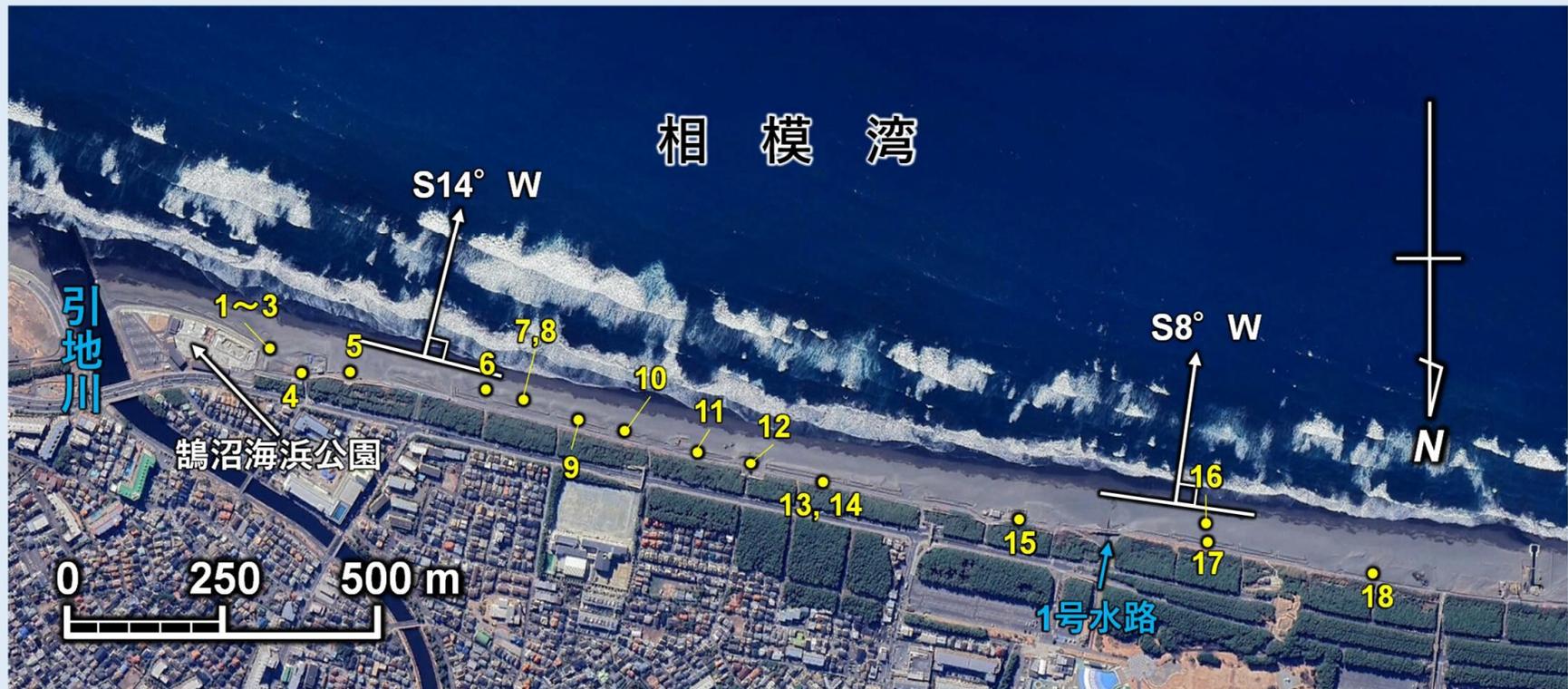


図-2 辻堂海岸の調査地点の拡大画像



写真-1



写真-2



写真-3

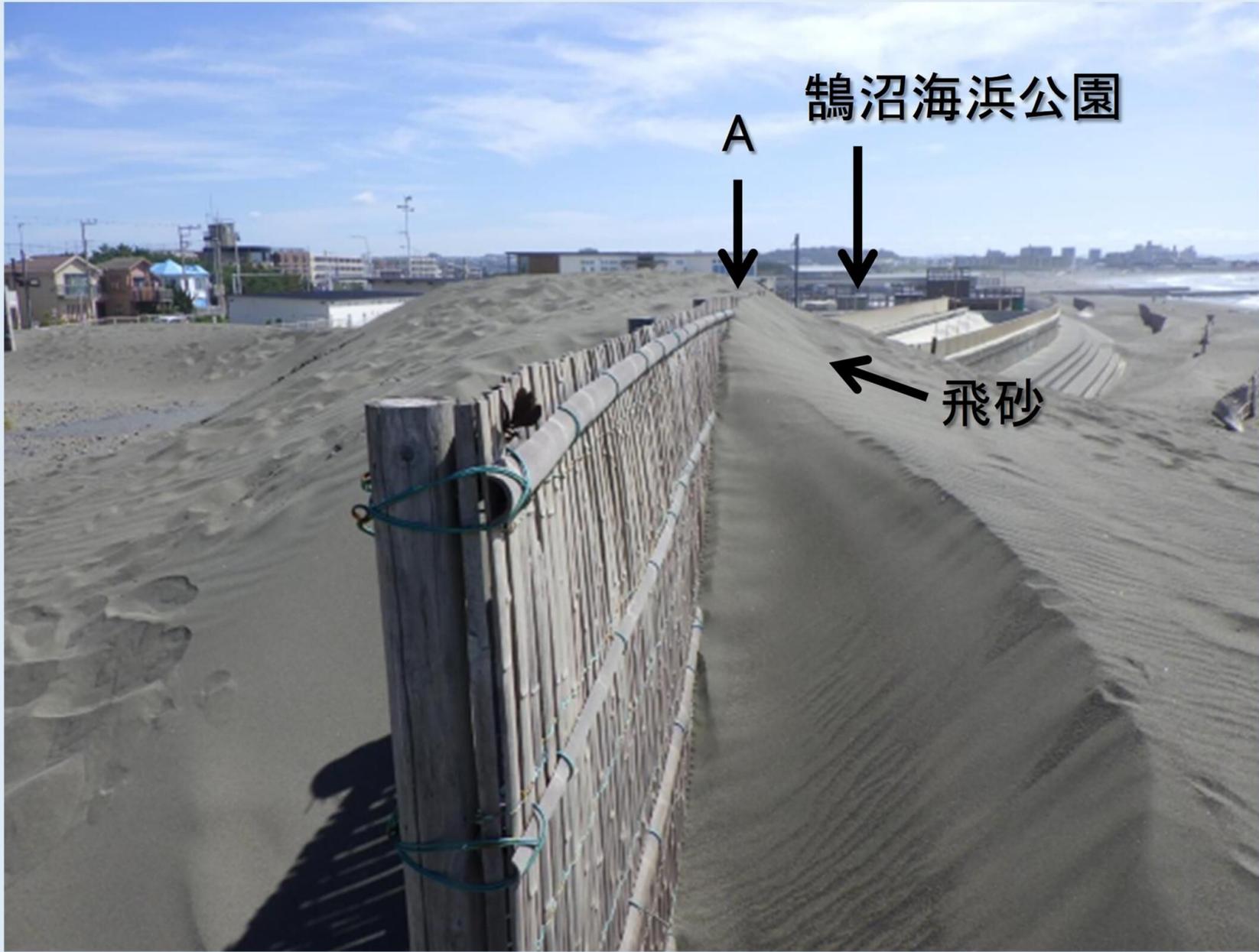


写真-4



写真-5



写真-6



写真-7



写真-8



写真-9



写真-10



写真-11



写真-12



写真-13



写真-14



写真-15



写真-16



写真-17



写真-18

まとめ

- ① 今回の辻堂海岸の飛砂状況に関する現地調査によれば、飛砂の堆積はSt.13, 14を境にその東側、鵜沼海浜公園に至る900 m間で著しかった。
- ② 図-2に示したように、この付近において汀線に立てた法線の方角が西側でのN8° WからN14° Wへと右回りに6° 回転しているため、S30° W方向からの卓越風的作用下で飛砂の陸向き成分がこの地点の東側では大きくなっており、これに応じて自転車道への飛砂の堆積量も増大していたと考えられる。
- ③ したがって堆積した飛砂を養浜材として利用する場合、St.13, 14より東側で重点的に飛砂の採取を行うことが有効である。

まとめ（続）

- ④ 一方，従来のように自転車道脇に1列の堆砂垣を設置した場合には，自転車道内への飛砂の侵入により交通障害が生じていたが，自転車道は常時利用されており，交通止めを行って飛砂の除去を行うことはかなり難しいので，大規模な方法で砂を除去することができなかった。
- ⑤ これに対して，今回はSt.10付近において堆砂垣海側の砂浜で砂の採取が行われたが，飛砂の堆積状況から判断すれば，St.13の東側で砂を採取するのが合理的である。
- ⑥ また，飛砂の堆積は，自転車道に沿った堆砂垣の近傍で著しく，そこから海側に離れるとその量が小さくなるので，自転車道の近傍での堆砂を重点的に除去する必要がある。